

平成23年度 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日時

平成23年11月1日(火) 午後3時から午後5時30分まで

II 場所

旧阿波銀行かちどき橋支店 2階会議室

III 出席者

【委員】15名中13名出席

宇山孝人委員・大西真知子委員・坂田千代子委員

佐古哲子委員・佐藤充宏委員・関本真美委員

竹林義浩委員・田中俊夫委員・小川広美委員

豊永陽子委員・山口隆弘委員・藤本美加委員・松岡優委員

【事務局】文化スポーツ立県局長・県民スポーツ課長ほか

教育委員会体育健康課班長ほか

IV 次第

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 スポーツ基本法について

5 議題

(1) 新「徳島県スポーツ推進計画(素案)」について  
～4部会合同会議において～

(2) 各専門部会において協議

(3) その他

6 閉会

《配付資料》

・スポーツ基本法リーフレット

・新「徳島県スポーツ推進計画(素案)」

V 議事録

事務局 (出席者人数の確認)

局長 (あいさつ)

事務局 (委員の紹介)

事務局 (スポーツ基本法概要の説明)

事務局 (会長が議長となる旨の説明)

## 議題（１）新「徳島県スポーツ推進計画(素案)」について

～４部会合同会議において意見交換～

会 長 本会の議長を務めさせていただきます宇山です。ご協力のほどよろしくお願いたします。本日は、事務局より「徳島県スポーツ推進計画(素案)について」ご説明いただき、全体で意見交換を行った後、場所を移っていただき、各専門部会に分かれ、ご協議いただく予定としておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

それでは、議題に入っていきたいと思います。新「徳島県スポーツ推進計画(素案)について」事務局から説明をお願いします。

### 事務局

（○計画の概要について、資料の「計画の策定に当たって」１～２ページ、「第１編第１章基本理念」３～４ページ、「第２編第１章スポーツ推進計画施策の体系」８～９ページにより説明）

（○各基本目標について、資料の「第１編第２章基本目標」について各専門部会担当者から説明）

会 長 ただ今の説明につきまして、何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。本日は、ざっくばらんに意見交換していただきたいと思いますので、委員の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

委 員 多岐にわたって計画されており、どれをとっても必要なものであります。若干、総花的なものになっています。大きな柱は、競技力の向上と生涯スポーツの実現であると思います。推進計画としてはこういった多岐にわたったものでよいのですが、施策を展開していく上では優先順位をつけて取り組むべきでないかと思います。国際大会等の誘致という項目がありましたが、確かに若い選手たちにとってトップレベルの大会に触れることは有意義なことと思います。はたして今の県内に国際大会や全国大会を、これだけの数の大会を誘致できるだけの受け皿があるのか疑問に感じています。たとえば水泳の全国大会を誘致するとなったとき、50m プールを確保できるのかといった、一競技をとってもそういう問題があると思います。

会 長 総花的な内容になっているのでないか。大きくは競技力向上、生涯スポーツと分けれるが、優先順位をつけてはどうかといった意見。もう一点は国際大会の誘致について誘致できるだけの受け皿が徳島県にあるのかどうかといった質問がありました。

事務局 大別すると生涯スポーツ、競技力向上といった二点に大別できるわけですが、競技力向上をとらえてみると、頂点を目指すためには底辺を広くしていくということが不可欠であり、それは相互に関連しています。それゆえ両方をにらみながらやっていくこととなります。おっしゃるとおり、予算、施設などの面で、県内の状況を見て、非常に

厳しい状況にあります。やはり優先順位をつけてやるというのは、おっしゃるとおりだと思います。今計画をつくる中で、国体での最下位を受けて、競技力向上など、具体的にどういったことをやっていくのか。原点に立ち返って、施設、指導者、それから言われている一貫指導体制においてどういった点が課題となるか考えていきたい。この素案が実現すれば、素晴らしい「スポーツ王国とくしま」になると思います。予算、人、施設に限られているなかで、優先順位をつけながら、一体的な施策を考え出していきたい。また、国際大会の誘致ということについても、施設もまだまだ全国的に見て貧弱なことを認識しているので、たとえば施設のいらない競技、マラソンなどの国際的な競技やトップアスリートを迎えていくということを念頭に置き、誘致も可能ではないかと思っております。

委員 目標設定が気になります。数値目標を掲げるようにしているが、慎重に行わないとある程度実現可能なレベルを配慮すべきだと思います。望みとして20位とかあると思うが、それが実現可能かどうか、今の実態の評価を踏まえたうえで、設定していかないと、無理な目標を立てると、逆に現場が混乱することがあります。バランスのとれた目標設定をしないと、数値目標は危険なものになります。慎重にしてもらいたい。またそれを計画していく段階、作られた段階で、ぜひ妥当な数値かどうか評価をしていてもらいたい。この後の専門部会で議論してもらいたい。

会長 目標設定が妥当かどうかといったご質問がありました。せっかく良い計画案を立てても実現不可能であったら意味がない、逆に現場が混乱するとのことでした。

事務局 事務局で案を検討する中でも、これまでの評価を行いつつ、目標値を設定していますが、もう一度実態に即しているのかどうか、再度チェックしたうえで最終案としてご提示できればと思っております。

委員 目標に関する質問ですが、「豊かなとくしま」のとくしまスポーツすだつネットの登録者の倍増となっているが、180人が360人、現時点の180人がどんなのか。また、登録も大事だけど活用されているのか、知られているのか、ということが大事になってきます。活用実績を含めた目標値を考えたかどうかと思います。登録者の数だけ増やせば良いというのではなく、どれだけ活用されているかということが大切だと思います。「耀くとくしま」の中の日体協の公認スポーツ指導者の登録者の増加が少ないように思います。10年間で100人ちょっとといった他の項目に比べると目標値が低いように思いますが、どうでしょうか。

事務局 とくしまスポーツすだつネットの登録者については、スポーツ振興財団のホームページにスポーツすだつネットの登録システムがあり、そこで情報を知ることができます。現在180名ですが、登録者数については毎年増加傾向にあります。といいますのも、現在キッズスポーツインストラクター等の指導者の養成を2年前から行っており、その養成された方に登録していただいたりしております。ただし、この中には委員のお

っしゃる活用の実績については入っておりませんので、その辺もまた検討していきたいと思えます。

事務局 日体協の公認スポーツ指導者の目標設定が少ないとのことですが、他の都道府県に比べると実際公認のスポーツ指導者の数は少ないです。年ごとの増えていく割合も、現状維持的なもので、先程の慎重なではないですが、このぐらいの人数なら啓発しながらやっていけるのではないかと考えたものです。いろいろな角度での話も出てくると思えますので、この後の専門部会の中で、また違う角度からのご意見をいただけたらと思えます。

会長 日体協の公認スポーツ指導者の登録者数ですが、現在徳島県は、全国45位。47位が鳥取県で974人、46位が高知県で1,028人、次が徳島県で1,050人。この登録数についてはもう少し考慮すべきかなと思えます。

委員 計画には数値目標を掲げろと言われるし、掲げれば掲げたで、このように言われる。運動部の入部率とかスポーツ実施率などはいい目標である。徳島県は毎年毎年これから2,000人ずつ人口が減っていく。経済力も落ちていく。その中でトップを目指すというのはあり得ないことです。これから数値が右肩上がりになっていくことはあり得ない。そういったことを考えると、しゃかりきにトップを目指すよりも、競技力なら競技をしぼる。広く豊かな心を目指すと言う意味で、健康スポーツを目指す。みんなが健康で、豊かであればいい。明るく伸び伸びしていればいい。1番でなくても良い。みんなが徳島に住みたいと思うような、そんなスポーツの在り方。お父さんが帰ってきても、疲れてスポーツをしないというのが現状ですので、お父さんが早く帰ってきて、一緒に週1回でもスポーツができるという、徳島らしく、ゆたかな徳島を目指したら良いのじゃないかと思えます。たぶん30位以内というのはあり得ないと思うので、目指すところを変えても良いと思えます。

委員 スポーツ指導員のことについて聞きたい。バレーボールの上級指導員やスポーツ指導員のことについて、バレーの担当の方に聞きました。まず日本バレーボール協会の方に聞くと、それぞれの県でということなので、徳島の担当の方に聞きました。バレーの専門分野は免除して、ほかの部分の資格を取れば良いと言うことで、徳島の担当の方に聞くと、「その試験は終わりました。次に徳島県でできるのはいつになるのか分かりません。」と言われました。ほかの県で受けなければならないのかなと思え、徳島の現状はこうですと、日本バレーボール協会の方に話をしました。他の県と比べ徳島県の現状というのは遅れているのかなと思えました。最低限の資格を取ろうと思っても、日本バレーボール協会とそれぞれの県の協会の話が違うこともあって、そういうことを統一していただきたい。私達はそのような案内をどのように手に入れるか、全く分からない。そのようなことをもう少し詳しく教えてもらいたい。

会長 日体協のスポーツ指導員養成講習会の開催については、毎年、県体協から各競技

団体へ照会しているが、なかなか開催希望の回答が上がってきません。バレーボール協会が開催するといった話もありましたが、指導者の関係で立ち消えになったこともありました。今後、スポーツ少年団の認定員資格を持っていれば、共通科目の免除といったこともありますので、指導員資格の取り方についても積極的に広報していきながら、また各競技団体にも徳島県でできるだけ開いていただけるよう、それに対する日体協からの委託金ありますので、手間もかかりますが、できるだけ資格を取っていただけるようにしていきたい。日体協の指導員資格等を持っている人の数が増えると、必ず競技力向上につながっていきますので、もっともっと増やすべきだと思います。できるだけ多くの方が指導員資格を取れるようにお互いに努力していく必要があると思います。

委員 国体が最下位、糖尿病の死亡率がワースト1、この二つは非常に大きなことだと思います。なぜ最下位なのか理由を把握して、それに対して対策を立てるべきだと思います。糖尿病については、東京では歩く、日々の中で歩いています。徳島では車から車。それであれば生活の中で歩けるように、県庁や銀行、大きな会社が、徒歩で、自転車で通勤するなどの運動をするよう呼びかけたらいいと思います。最下位というのは何か原因があるわけですから、原因を明らかにして、対策を立てるべきだと思います。全国の事例もあるはず、昔は最下位だったところが30位まで克服したところがあれば、その事例を参考にします。たとえば徳島ヴォルティスがこれだけ頑張っていれば、子供達もサッカーを頑張り、サッカーも強くなると思います。何か原因があってその結果が出てくると思うので、その二つについては、特に特長があるので、国体と糖尿病について、その原因と対策について、まずはこれをしたらというものを打ち出していければと思います。

会長 国体最下位、この原因を把握して、他県等の工夫を参考に対策を立てていくべきだと。もう一点の糖尿病死亡率ワースト1については、日々の生活の中でできるだけ歩く、あるいは身体を動かすといった工夫が必要で、たとえば県庁で徒歩通勤、自転車通勤を奨励するなどのご提言をいただきました。

事務局 まず一点目の国体最下位の原因の究明についてですが、早速、県の県民スポーツ課、県教育委員会、県体育協会などの事務局が集まり、今後どうしていくべきか対策を協議したところです。今月を目途に各競技団体とも意見交換し、その中でどういったことが課題なのか、またテーマをもって一貫指導のどういったところが課題なのか、あるいは優秀な指導者をどのように育成していくのか、それぞれの視点をもって、それぞれの課題を洗い出して行って、次の施策に結びつけていきたいと思っています。

二点目の糖尿病対策については、生活の中にスポーツ・運動を取り込んでいこうと、そういった全県的、学校ぐるみ、企業ぐるみ、といったことも考えていきたいと思っています。

委員 国体でいい成績をと言って10年20年一生懸命やってきても、実際それがかなわない。テニスにしても、相撲にしても、全国には沢山の猛者が一杯いるわけで、ぎり

ぎり定員を10名なり5名そろえた県と、沢山の中でふるい落としとして出てきた東京や神奈川などにはかなう訳がない、というのが実感です。如何せんテニスとか柔道とか相撲とか、かないっこない。しかし、とても順位に入れられないような競技をするよりも、得点しやすい未普及のマイナーなスポーツに高校3年間を縛り付けるのはどうかなと思います。徳島県の人口と佐賀県とか、鳥取県とか、後から五つぐらいの県、如何せんそういったところに国体の順位を出せといったところで、人数換算でもしてもらわないと折り合わない。

糖尿病の死亡率ワースト1についても、10年間ずっと県民あげてやってきているが、1日10,000歩目指したり、プラス1,000歩を目指したり、やっているが、音頭を取っても行動に結びつかない。残念ながら、たとえば東北の盛岡とか秋田とかにも負けてしまう。確かに数字のうえでも少ない。動かないだけでもないと思う。わりとお金をかけないという県民性もあると思います。糖尿病になってから、ひと月薬代が5,000円かかる、5,000円がもったいない。その金をかけない。もっともっと悪くなってから、しょうがないから行こうかな、という方が多いです。病気にかかる前に予防してほしいが、なかなか病気になっても受診してくれない。それがワースト1の原因かなと思います。

会 長 競技人口から考えるといたしかたない面もあるのでないか。国体の順位を上げるために得点しやすい未普及の競技に力を入れるのもどうかといった意見だったと思います。糖尿病に関しましては今後予防していかなければならないが、なかなか実行できていないという意見だったと思います。私は、小学生の運動する子としない子の2極化、糖尿病死亡率など考えてみた場合、徳島県民が小さいときから身体を動かして、大人になっても糖尿病にならないとか、寝たきりにならないとか、そういったことにみんなが知恵を出し合っていく必要があるのかなと思います。

委 員 国体が最下位になって、読者から電話があり、県の姿勢に対するご指摘があった。「県は観光面など成果が目に見えるものには金を出す。しかし、東四国国体以降、他県の水準と比べても国体強化費は減少傾向にある。お金をかけるだけが強化でないですが、強化をする上で費用はかかります。その中で強化費が年々減少している。徳島の健全な青少年の育成にもつながるようなスポーツ振興への投資が、はたして無駄なのか。」という風なご指摘をいただきました。これらの施策を展開していくうえでも、たとえば国体強化費一つとっても、予算が絡んできます。厳しい県の財政も充分承知していますが、この施策を展開していくうえでの予算確保の裏付けについてのどのようになっているのかお教え願いたい。

局 長 県財政の厳しい中、予算編成にあたって、この推進計画を実現できる方向で、またその強化、青少年の健全育成、市町村の振興といった面でしっかり予算要求してまいりたいと思っています。先程来ご意見いただいております原因の究明、それを踏まえた施策の展開をどうしていくのか等を検討する中で、財政当局に予算要求して、しっかりと予算を確保してまいりたいと考えております。

会 長 色々なご意見が出てまいりましたが、この後は、これらの意見を踏まえ、各専門部会でそれぞれ協議、検討を行っていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして、平成23年度「徳島県スポーツ推進審議会」の議題(1)を終了させていただきます。この後は、各専門部会で協議していくということで、各専門部会長に進行の方をおまかせします。ありがとうございました。

事務局 議題(1) ～ 4部会合同会議終了 ～

## 議題（２）各専門部会において協議

「元気なとくしま」部会、各委員から

- ・この部会では、体力向上と競技力向上（ジュニアの部）の両面を含んだビジョンを示すことが求められている。
- ・現場に向けてわかりやすいキーワードを入れる必要がある。

### 施策１ーア 学校体育の充実と運動部活動の活性化

- ・現場を変えていくために、事業の重点化を図るべきと考える。
- ・小学校の現場では、課題も分かっている、計画も立てられている。指導ができない先生へのアプローチはどうすればよいのか。
- ・今年度、「はつらつサポート」という取組で指導主事等が授業支援をしている。
- ・イギリスの基本計画では、学校や地域で１週間に運動する時間を目標にしたり、子どもの生活圏のなかで交流できるようなシステムをつくるようにしている。
- ・県教委では、今年から５年計画で「あわっこ体カスマイル事業」を実施している。学校で特徴ある取組をしている学校を支援するなど、様々な取組を実施している。
- ・運動部活動の活性化について、人口減少の問題、支援体制の具体策はどうしていくか。
- ・合同運動部や総合型スポーツクラブとの連携が必要になってくると思う。
- ・子どもの部活動にはお金がかかり、共働きが多くなっている中、子どもと遊ぶ時間が無い。学校だけでも子どもを守ってくれていて嬉しい。
- ・幼稚園児が、保護者と屋外遊びができる内容の推進を事業ですること大切である。
- ・どの子にもあった、競技力の向上につながるグランドデザインをするべきである。

### 目標について

- ・全国の体カテストの順位の数値目標より、運動好き、運動時間の目標などにしていく方がよいのではないかと。
- ・運動をあまりしない生徒に、週１回でも運動ができる機会や活動場所があればいい。
- ・小学生では１～４年生に体カアップ１００日作戦、５・６年生は歩数計を生かし、プラス１０００歩チャレンジ、中学校では、３０・３チャレンジという内容で、それぞれが目標を持ち、運動を計画的・継続的に実施するようにしている。
- ・１００日作戦や３０・３チャレンジの実施校の数値目標を出したらいいと思う。

### 施策１ーイ ジュニアから成人に至る一貫指導体制の構築

- ・一貫指導体制については、競技団体との整合性を示すべきである。子どもの競技力向上への考え方や取組方に、競技団体によってばらつきがある。
- ・各競技団体は、もっと学校と連携してやればよいと思う。自分たちの持つ専門性を普及に向けて活用していけばよいと考える。指導者の配置も大切である。
- ・強化するところに、専門性の高い教員を配置するようにしたい。
- ・スポーツ指定校の見直しは、５年間は長すぎる。

- ・今回は3年間で見直しする予定である。

#### 施策1ーウ 学校を核とした派遣指導制度の充実

- ・地域のスポーツ指導者が、学校の授業をサポートすることが、本当に可能なのか。
- ・授業をサポートする場合は、退職した保健体育専門の元教員などがベストと思う。
- ・自分の方針と違う人や人間関係が築きにくいなどの心配はないか。
- ・運動部活動の場合は、外部指導者と学校の考えや方針が一致するかが重要になる。
- ・小学校で、専門生のある先生が体育の授業に入ることができないのか。
- ・教科担任制で、体育専門の先生が他のクラスに入ることはない。入ることができれば、統一性のある授業内容になる。
- ・外部指導者を派遣するというのは、予算付けができているのか。
- ・運動部活動の派遣事業は国からの委託授業を受けている。

#### 施策1ーエ 各年齢層のスポーツ機会拡大への方策

- ・幅広くアプローチをかける方法と、問題のある子にアプローチをかける方法、両方必要であると思うが。
- ・医者、養護教諭との連携を取りながら、どのように進めるのか。特に苦手な子にどのように運動に参加させるかが重要である。
- ・キッズわんぱくランキングを実施し、誰でも参加できるような仕組みも作っている。
- ・キッズわんぱくランキングでは、インターネットを活用とあるが、システムを構築しても活用しないケースが多いと考える。
- ・興味・関心を引くようにと、学校から入力できるということも考えている。
- ・本県には、お金をかけず、家族で運動できる場所が無いことが課題と考える。
- ・学校の施設は使えないのか。
- ・学校は社会体育で埋まってしまっているので使えない。
- ・今の子どもは、強制的に仕掛けないと運動しないことが多い。放課後、指導できる方が学校に来てしてもらえるとよいが。
- ・苦手な子が運動に参加できるよう、親子や兄弟、友達と参加しやすい機会、場所を作る必要がある。
- ・アバウトな目標になっているが、誰がやるのかというところをはっきりさせなければ行けない。今回は、県がするというスタンスで考えていく。

#### 施策1ーオ 学校を核としたスポーツ環境の整備

- ・経費が必要になってくるが。
- ・補助事業があるので活用したい。
- ・ハードの部分は、現場ならではのアイデア。ソフトの面は、計画を誰が作って誰が実施するか、制度整備も環境整備に入ってくると考える。

等の意見が出た。

「輝くとくしま」部会、各委員から

- ・ 30位台の目標は、目指す方向として必要だと思う。
- ・ 指導者の適正配置が大切である。県外流出を防ぐためにも、指導者の力が大きい。
- ・ ジュニアは指導者を選び進むべき学校を決める傾向が強い。
- ・ 10年ルールとかを、誰にも適用するのはどうかと思う。
- ・ 香川県は、15年でやっている。レスリング等は、スパーリングができないと監督は難しいので年齢的なことも考慮すべきである。
- ・ 体育教員以外の指導者の適正配置も考慮に入れることが大事である。
- ・ 各競技団体の指導者の情報をしっかりと把握しておく必要がある。
- ・ 教職員課と常に情報交換が必要であるし、十分な交流をすべきである。
- ・ 合宿や大会で職場を抜けることがあるが、そのような時も職場の理解が必要である。
- ・ 水泳の選手発掘は、クラブの中でしかできないか。底辺を広げるためにも、学校に行つて指導することはできないか。
- ・ いいスポーツクラブの例もあり可能性はある。
- ・ 以前はやっていたようである。学校からの要請で行っている人もいる。来年度から着衣泳も含めて検討する話になっている。
- ・ 民間の水泳クラブを休みの日に解放すればどうか。
- ・ 学校内では指導教員が必ず必要である。学校外では保護者が連れて行けば可能である。ギブ&テイクである。
- ・ 小学校で、スポーツの2極化をさせているのでは。スポーツを好きな楽しめる人が、教えにはいることでスポーツをする人は増えるのでは。
- ・ 小さいときにスポーツをする動機付けをすることが大切である。
- ・ 競技団体によって、さまざまであるが、組織があっても人が繋がらなかったり、人が少なすぎて組織として機能しなかったり。
- ・ 指導者の資格を少年団の時から取ることを考えることが適切である。
- ・ スポーツ少年団の指導者で、あまりにもひどい人が今だにいる。
- ・ 小さい子供の時の声かけが大切である。他の競技の人の講習会などをするなど指導者の資質向上になる。
- ・ 多くの競技団体で実施しているが、平成5年の頃と比べると指導者講習会などの予算に格段の差がある。
- ・ いろいろな人との出会いでいい影響や刺激を受けることは、指導者にとっても子供にとっても大切である。
- ・ 10歳くらいまでは、子どもは向かってくるが、それを超えると一歩引いてしまう。指導者のほめ方が大切。小さいときにその気にさせることが大切である。
- ・ スポーツ医科学の拠点施設の活用が必要と思う。
- ・ 基礎体力を上げることが必要と思ってやっている。筋力の測定し、データを集めることも大事だが、今は特に必要性を感じていない。
- ・ データをもらっても、そもそも活用の方法が問題である。画像がいい。水中カメラを使つての練習への活用等も考えている。

- ・公認指導者の平成33年度の到達目標が1,190人では低すぎるのではないか。東京国体から公認資格がすべての競技で必要になるので、それを養成のチャンスとして考えて取り組むことも必要である。
- ・必要のない競技がある。水泳も陸上も一人いれば大丈夫だ。総体など国体以外では必要ないので難しい。
- ・水泳は国際大会出場になると必要である。
- ・県体協の指導者資格への補助の制度（10万円×5名分）の周知も含めて啓発活動。個人負担が少ない状況であれば取得しようとする人も増えるのでは。しかし、中には時間数が相当数必要で職場の理解が必要である。
- ・10年後の目標設定として妥当かどうか。
- ・現場でのスポーツ指導者不足もあるが、スポーツ栄養士などの取得も含め、しっかり啓発しながらすることとして目標を少し上げて大丈夫なと思う。
- ・クラブマネージャーの養成も総合型の普及のために努力しなければと思う。努力目標として上げることも必要。
- ・啓発的な活動を継続的に行うことで1050→1150→1250としてよろしいか。
- ・何をしたら国体30位台になるか。具体的な案があれば。
- ・今日の新聞にも載っていた卓球の濱川（城東中→上宮→近大：3年連続全日本4強）のように、県外に高校、大学で実力を上げた選手が、ふるさと選手として活躍している。濱川は山口国体でも個人では全勝。あと一步ベスト8を逃している。他競技にも、ふるさと選手の有効な活用をすることで、即戦力として結果が出やすいと思う。高校生は、すぐには難しい。
- ・地元へ帰っての雇用してくれる場所があれば一番いい。
- ・企業への雇用の働きかけを、部長、局長など役職の人をお願いすることが必要である。実際に動くことが大切。
- ・アドバイザー制度の活用も考えてみたらどうか。
- ・以前は、知名度のある選手に頼んでしたこともある。継続性もあるしお金の問題もある。山口国体において、山口県はその制度は活用していた。
- ・県出身者で適切な人はいないのか。
- ・各競技団体でアドバイザー的なコーチをできる人はいるが、マイナーな競技はいないところもある。
- ・発掘するためには、どうしたらいいか。
- ・福岡のように学校主体の発掘制度もあるが。自分の目で見たい。見ないとわからない。そういう意味では、競技団体が学校に回っていくことも必要である。
- ・国体へ向けてのアクションプランは、いつどこでどのようにしていくのか。
- ・実態調査をしている途中で、今後それをもとに競技団体からヒアリングを実施し、県スと県教委、県体協で、再度分析をし、課題を明確化したうえで、組織や各事業の改善等について協議していく。

等の意見が出た。

「豊かなとくしま」部会、各委員から

- ・マيسポーツや県民スポーツSHOWデーを策定することで、スポーツ実施率の底上げになると思う。
  - ・三好市も毎月第4水曜日をチャレンジデーとし推奨しているが、中々浸透しない。
  - ・ニュースポーツといってもたくさんあるので、県として具体的な種目を5種目程度ピックアップしてはどうか。
  - ・ウォーキングなどの新しいスタイルも含め、「徳島オススメニュースポーツ」をつくり情報発信する。
  - ・ウォーキングなど健常者と障害者が一緒にスポーツができる機会が必要である。
  - ・スポーツ少年団などの指導者同士が集まって情報交換を行ったりする場を作ることも大切。
  - ・総合型クラブだけで活動するのではなく、地域の関係団体と連携することで新たな取り組みができる。競技力向上など全ての取り組みに通じると思う。
  - ・スポーツ推進委員が何もかも指導するのではなく、指導できるマيسポーツを持ってもらうことが必要ではないか。
  - ・スポーツすだつネットで指導者情報だけでなく、種目や謝金単価なども確認できれば利用者も増えるのではないか。
  - ・60歳前後のスポーツボランティアを養成し、70歳前後の方を指導するような仕組みも必要だと思う。
  - ・マيسポーツ運動とかスポーツの日をつくるとかは、色々な所で行っているが、新しい発想で今までないものが必要である。
  - ・マيسポーツ登録用のコラントッテをつくり、運動種目に応じて体に身に付けてもらう。自分の選んだコラントッテを身に付けることで運動の意識が持てるのではないか。
  - ・総合型クラブがマيسポーツの登録者の窓口となり、クラブの資金になるような仕掛が出来ればと思います。
- 等の意見が出た。

「ふれあいとくしま」部会、各委員から

- ・スポーツボランティアは、登録者数だけでなく、活躍の場を考えていくべきである。また、目標を設定にあたり、具体的に何をするのかを示さなければいけない。
  - ・目標は目標として置いておき、確実にできることに絞り、実行可能な事から行う方が徳島県としては取り組みやすいと思う。
  - ・限られた予算で実施するので、県民には何が必要で、何ができるのか、どこから協力を得るのか等を洗い直さなければいけない。
  - ・事業を推進するためには、県と市町村との連携が必要である。
  - ・県全体で考えるだけでなく、県内を県南、県西、県北、県央などのブロックに分け、そこで何が可能で、どれぐらい人が集まるのかなどを絞り込んで検討するステップも必要である。
  - ・生涯スポーツの推進のためには、情報発信が重要であり、県民へは紙面とホームページの両面からのアプローチが必要である。
  - ・県民からのニーズも多様化しているが、行政サイドが県内の全体像を把握し、優先順位や実現可能なことから着手する方がよいと思う。
  - ・子ども達とヴォルティスやインディゴソックスなどの選手とふれあえる場の機会の創出は、競技スポーツへ波及する可能性もあり重要であるし、県が音頭をとることで相乗効果が上がると思うので積極的な展開と情報提供をしっかりと実施してほしい。
  - ・行政用語を使うのではなく、生涯教育の推進には、子ども達から高齢者まで分かりやすい表現であるとともに、具体的に示した方がよい。
  - ・県民が毎朝6時30分にラジオ体操を行うなど、分かりやすく、継続性のあるもの、県の費用が必要がないイベントなども展開していくべきである。
  - ・周知は県民に広く、分かりやすくし、目標も可能なものにしておくことが重要である。
  - ・助成などの予算の確保に努めるとともに、有効に活用し、重点配分などを行うなど十分検討しながら施策を進める。
  - ・推進計画は、文科省に沿ったものでよいが、展開していく上で徳島県版で進めていく。
- 等の意見が出た。